

暖地型牧草栽培のポイント

耕起・整地

種子が微細なため耕起後の整地をていねいに行うこと。

イタリアンライグラスの後地ではプラウで反転し、その後ロータリハローを浅く2～3回かけ碎土整地する。

播種時期

平均気温が15℃以上になったところを目安とする。

播種量

10 a 当り 2～3 kg。

播種方法

種子が小さくて軽く、風に飛散しやすいため、播きむらを起しやすいため注意する。特にローズグラスは飛散しやすいので、播種直前に種子を水で湿らせ、3～4倍の細土と揉み合せて播種すると良い。粒状の過リン酸石灰等と混合して播くのも良い。播種後、柴ハローや、レーキ等を用いて軽く土と混合し、必ずローラで強く鎮圧する。

施肥と刈取

基肥：窒素 6～8，リン酸 20，カリ 6～8 kg / 10a。

追肥：(2～3葉期及び各刈取ごと)

窒素 8～10，カリ 6～8 kg / 10a。

暖地型牧草は種子が小さく、肥料やけを起しやすいので、基肥の窒素は少なめとし2～3葉期に追肥すると良い。

刈取は、草丈80～100 cmを目安に刈取り、7～10cmの刈高とする。刈遅れや低刈りは再生不良の原因となるので注意する。

雑草対策

雑草の多いところでは、2～3週間前から播種準備をしておき、2～3回地表面を軽く耕すか、暖地型牧草播種前か播種後2日以内にグラモキソンを散布し、先に出芽している雑草を枯殺する。生育期に広葉雑草が多発したときは掃除刈をするか、2・4-D やMCPといった選択性の除草剤を散布する。

休眠打破

カラードギニアグラスやグリーンパニックはジベレリン処理で休眠打破することにより発芽率を約2倍に向上することができます。種子添付の薬剤・説明書をお役立て下さい。